



ありま交流館だより

《発行》 有磨交流館 福山市芦田町上有地123-3 ☎ 958-3849
✉ arima-krk@city.fukuyama.hiroshima.jp



こちらのQRを読み取ると
有磨交流館のホームページ
がご覧いただけます！

まちづくり推進委員会よりご報告

ふれあい秋祭り



『作品展&人権パネル展&出店』が開催されました！

10月25日(土)に有磨交流館で“ふれあい秋祭り”が行われました。例年夏に行っていた『夏祭り』は酷暑のため、参加者・役員の健康面を考慮して開催時期を秋に変更しました。今年度からは、文化祭と夏祭りを『秋祭り』として、同時開催(≧▽≦)！ 朝方の雨には心配しましたが、開催時間中はお天気になり…地域の方や子どもたち、たくさんの皆さんが参加してくださり、とてもにぎやかな1日となりました。

『作品展』には、有磨交流館で活動されているサークルの皆さんや、一般の方の力作を多数展示しました。サークルの参加人数も減少するなか、地道にコツコツと精進され…素晴らしい作品の数々を出展してくださいました。生花や手芸、水墨画、書、竹細工や絵手紙など、力強い作品で盛りあげていただきました。



『人権パネル展』では、“認知症”をテーマにパネルを展示しました。有磨学区では、9月に高齢者の人権について住民学習で話合いました。老いは誰もが通る道であり、認知症は年齢にかかわらず、誰もがなり得る病気です。その病を学び、理解を深め、家族や友達、周囲の人がどのように寄り添っていけばよいのか？

本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために…今回のパネル展が、少しでも今後のヒントになっていれば幸いです。



交流館の駐車場では、自治会連合会や体育会、女性協議会など各団体のご協力により、うどんや焼きそばなど美味しいものやゲームなどの出店があり、また和室では、お茶席をご用意…有磨小茶道部の子どもたちが着物姿で、季節のお菓子とお抹茶をお運びしてくれました。

オープニングは“有磨鼓遊会”の皆さんによる和太鼓の演奏…力強くお腹に響く重低音、全身を使ったダイナミックで見事なパフォーマンスでした👏👏👏!!!

有磨鼓遊会は、杵磨地域で練習・活動しています…興味のある方は、有磨交流館(☎ 958-3849)までお気軽にお問合せください。練習の様子を見学できますよ！(≧▽≦)！



ご協力いただいた皆さまのお陰で無事に開催することができました。
ありがとうございました…心よりお礼申し上げます(*´▽`*)！！

まちづくり推進委員会 生活安全・環境部会 & 自主防災会からお知らせ

『防災学習会』を開催します！

災害に対する備え…みなさんはどのくらい準備していますか？ 避難場所や家族間での連絡方法など確認しておられますか？ 天災は…忘れた頃に起こります！

日 時 : 11月29日(土) 14:00～
場 所 : あしだ交流館
内 容 : 防災のまちづくり ～地震に対する備え～
講 師 : 福山市 危機管理防災課
危機管理担当次長 江原誠一さん



《問合せ》 有磨交流館 ☎ 958-3849

芦田中学校の生徒が交流館で職場体験をしました！

10月1日・3日の2日間、芦田中学校2年の3人が交流館でチャレンジウィーク（職場体験）をしました。

1日目は、芦田大谷砂留に出向き、砂留を守る会会長の村田政雄さんより砂留について説明を受け学びました。

2日目は、社会教育活動事業のスマホ講座「LINEを活用してみよう」にサポートとして参加…地域の参加者と一緒に利用方法について学びました。

2日間、慣れない環境で不安と緊張の連続だったと思いますが、何事にも真面目に取り組む、笑顔でコミュニケーションを取り頑張りました。



有磨館長の

聞きかじり vol.27

エジソンのお母さん



7歳のエジソンが学校から帰ってくると「ママ、先生がこの手紙をお母さんに渡すようにって」と、1枚の手紙を母ナンシーに手渡しました。

その手紙を読むと、母ナンシーの目はみるみるうちに涙でいっぱいになりました。目に涙をためながらもナンシーは、大きな声でエジソンにその手紙を読んであげたのです。「あなたのお子さんは天才です。我が校には彼に教えられるような立派な先生がいないので、あなたが息子さんの先生になってくれませんか」エジソンはその日から母と図書館で勉強を始め、後に偉大な発明王になりました。

母ナンシーの死後、エジソンが遺品を整理していると、彼女の机から不自然に小さくたたまれた手紙を発見します。興味を持ったエジソンがそれを広げて読んでみると、そこにはこう書かれていました。「あなたの息子は精神障がい者であるため、これ以上学校に来ることは許可できません」…そう、それはエジソンが7歳の時に学校から母にもらってきた手紙だったのです。エジソンはそれを読んで数時間泣いた後、彼の日記にこう綴りました。「トーマス・アルバ・エジソンは精神障がいのこどもでしたが、素晴らしい母によって世紀の発明家に変身しました」と。

一人でも自分の未来を信じてくれる人がいれば、人は変われます。その誰かを信じてあげる1人になりたいものですね。

(SNSより引用)